

まちづくりへの思い

大イチョウの保護と 地域環境保全

百海会 広瀬 久忠さん



私たちが住む地域には伊掛山という山があり、県の天然記念物に指定されている樹齢500年以上とも言われる、大イチョウがあります。急斜面に点在している棚田や大イチョウまでの道のりは、四季折々に美しく、地域の誇れる景観を守ることが耕作放棄地の防止や山間地の環境整備にもつながります。急斜面の山道に植樹をしたり、草刈などの作業を地域で行ったりすることで、地域の人が地域を知り、またそのことを地域外の人に発信することで地域

を活性化させようと考えています。事業の申請段階では、何でもこまめに申請書作成や提案発表などしなければならぬのか理解できず、周りに聞きました。しかし、他の人たちが真剣にやっている姿を見て自分もやらなきゃという気持ちになりました。地元の方に話をもち帰り、話し合った結果、今回の提案となりました。このような情報をキャッチして自分たちの生活に役立てることも必要ではないでしょうか。

高齢者のよさこい祭り

松田 和枝さん



公民館でのいきいき健康体操がきっかけで、メンバーから和倉で行われている「能登よさこい祭り」に出たいとの声があり、3年連続で出場しています。地域の小学校の行事や敬老会などにも参加し、交流の輪を広げています。この活動をするようになって、みんな生き生きとして元気になりました。しかし、高齢者がよさこい祭りに参加しているのは和倉地区だけでなく、全地区に呼びかけてよさこいで七尾を元気づけたいと思います。当面の目標は来年の大会への出場です。ぜひ一緒に踊りま

せんか。
65歳以上の参加者を募集しています。10月6日(火)からパトリアで踊り講習会を始めます(14ページ参照)。ボランティアでお手伝いしてくれる方(年齢不問)も募集していますので、興味のある方はご連絡ください。(☎0990-568010379)
公開審査では、全体的に地域を限定した活動が多く、七尾市全体を巻き込む活動がもっとあればいいなと感じました。みんなの力を合わせて七尾市全体の元気を発信していければいいと思います。

提案者が語る、

おもちゃ図書館

ボランティアグループ ぼっかぼか
代表 萬行 嘉子さん



子どもたちは遊びの中で育ち、おもちゃは遊びを豊かにする道具です。しかし、良いおもちゃは高価だったり、子どもの成長が早かったりするため、子どもの発達に合ったおもちゃを各家庭でそろえるのは難しいと思います。そこで「おもちゃの貸し出し」をすることで、大人がおもちゃを買い与えるのではなく、子どもが気に入ったおもちゃを選ぶことができるようになります。親子のコミュニケーションが増え、貸し出しの場が親同士のコミュニケーションの場になることにも期待しています。

おもちゃの貸し出しを11月の毎月第2・第4土曜日の午前11時から午後4時まで、ミナ・クル3階の親子ふれあいランドあい・あい・あい(☎52-1476)で始めます。私たちの活動に協力してくれるボランティアの方、ご家庭で使わなくなったおもちゃを募集していますので、ご連絡ください。
公開審査では、今まで知らなかった他の人たちの活動やがんばりに感心させられました。今後はもっといろいろな活動の提案が増えれば、市民活動のレベルが上がっていいと思います。

審査員の声

公開審査を終えて

審査委員長 眞鍋 知子さん

地方分権が叫ばれ、これまでは「公共的なこと」は全て行政が行うものと考えられてきましたが、これからは市民が行政と一緒に担っていくという主体性が問われる時代になりました。そういう意味で、今回の「七尾市協働のまちづくり推進事業」は、市民と行政との協働のまちづくりを進める大きな一歩となる事業です。

活動を担う市民団体には、その事業が「公益性」をもつものかどうか何よりも問われます。活動の担い手が満足するだけでなく、その活動が広く市民に支持されたものであり、誰もが関われる活動であることが評価されます。審査委員はこの点を重視して審査させていただきました。

審査するうえで難しかったのは、地域で長年の実績を積んできた団体と、これから新たに事業を立ち上げようとする団体とを同じ基準で評価することでした。この点は来年度以降の課題でしょう。

申請書類と公開プレゼンテーションを通じて、どの活動団体からも事業に対する熱意が十分に伝わってきました。補助を得た諸団体には、将来にわたって自立的な活動へと継続されることを期待しております。

